

令和8年 9月

四万十町議会 定例会 町長行政報告

地震等の自然災害への対応

本年7月28日に最大震度7を観測した「令和8年熊本地震」では、死者38名を含む人的被害約4百名、住家被害4万3千棟余り、8月末で今なお2千4百名を超える方が避難されています。

犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表しますとともに、被災されたすべての皆様に心よりお見舞い申し上げます。

今回は、猛暑や断水が続く過酷な避難生活の中で、被災者の命と生活を守る迅速な支援が強く求められました。

本町では高知県からの要請を受け、8月18日より9月3日までに計2回、2名の職員を20日間にわたり熊本県氷川町に派遣しました。現地では、主に避難所運営支援業務を行ってき

ました。派遣された職員からは支援業務の状況や倒壊家屋など被災状況の報告を受けたところです。復興にはかなりの時間を要する状況にあることから、今後も引き続き被災地からの要請に対し、職員の派遣など、全力で応援するとともに一日も早い復興を願っています。

また、区長連絡会ではいち早く義援金の取り組みにも着手いただいております、社会福祉協議会を通じて被災地に町民の皆様の温かいご支援を随時届けているところです。皆様方の温かいご支援・ご協力に感謝申し上げますとともに、役場・社会福祉協議会においては10月末まで受付を行っておりますので、復興に向けた温かいご支援をお願い申し上げます。

地震のみならず、最近では異常気象に伴う各地の豪雨災害により、甚大な被害がもたらされています。

本町においても、いついかなる時こうした大規模自然災害に直面するか予断を許さない状況にあります。今回の各地の災害から得られた教訓を、本町における今後の防災行政および危機管理体制の強化にしっかりと生かしていきます。

今後全庁一丸となって防災・減災対策の強化に全力で取り組んでいきますので、町民の皆様には、防災

意識の普及・啓発とともに、日頃の備えや自助・共助の取り組みについて、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

高知県消防広域化に向けた状況

近年、人口減少や高齢化が進行する中においても、住民の生命、身体及び財産を災害から守るため、将来にわたって消防力を維持・確保していくことは、自治体にとって重要な課題となっています。

こうした中、高知県においては、将来の消防需要を見据え、消防体制の維持・強化、職員の安定的な確保、専門性の向上、広域的な応援体制の強化などを目的として、県下全域の消防広域化に向けた協議が進められています。これまで各消防本部の現状や課題を踏まえ、市町村や関係機関との協議・検討が重ねられてきたところです。

去る9月3日、全市町村長等が参加する「第2回高知県消防広域化に関する実務協議会」が開催されました。当日は、今後の取組方針についての意見集約に加え、実施計画案を取りまとめるため、「令和11年度の本部統合を目指す案」または、指令システムの共同化が開始される時期を踏

まえ「本部統合を令和16年度まで先送りできる案」を問う採決が予定されていた。しかしながら、その採決に先立ち須崎市から本協議会からの「離脱」の申し入れがあり、採決には至らず継続協議となりました。

このような状況ですが、本町としては、今後さらに人口減少が進む中、消防職員の安定的な確保や専門性の向上、消防力の維持・充実、さらには大規模災害時における広域的な応援体制の強化を図る観点から県下全域の消防広域化は、有効な選択肢であると捉えています。

そのため、引き続き、県が進める消防広域化に関する実務協議会や専門部会等に参加し、本町に必要な課題や条件等を十分に確認しながら、慎重かつ前向きに協議・検討を進めていきます。

一方で、本町は、現在、須崎市、中土佐町、梶原町、津野町、四万十町の5市町で構成される「高幡消防組合」の構成団体でもあります。高幡消防組合は、これまで、地域の消防・救急を担う重要な役割を果たしてきた組織であり、将来にわたって地域の消防力を維持・確保していくためには、構成市町間でも十分に協議を重ねる必要があると考えます。

したがって、本町としては、

県が進める広域化の協議に引き続き参加するとともに、高幡消防組合においても今後の組織体制や消防力のあり方について十分に協議を進めていくことが重要であると認識しています。

その上で、住民の皆様の生命、身体及び財産を守る消防本来の使命を第一に、関係市町村、県及び関係機関と十分に連携を図りながら、将来にわたり持続可能な消防体制の構築に向け、慎重に検討を進めていきます。

なお、県の広域化に参加する場合は、今後、法定協議会の設置や広域連合の設立など、議会にお諮りする事項も生じてきます。協議の進捗状況や具体的な内容について、適宜議会への情報提供と丁寧な説明に努めていきます。

四万十川桜マラソン大会の 今後の方向性

四万十川桜マラソン大会については、町村合併後の町民の一体感の醸成と、交流人口の拡大による地域活性化を目的として、平成21年4月第1回大会が開催されました。

その後、東日本大震災や新型コロナウイルス感染症の影響により3度の大会中止を余儀なくされましたが、

本年3月には第18回大会が開催され、これまで延べ1万7千人を超える県内外からのランナーの皆様を本町にお迎えすることができました。

この大会が長年にわたり開催され、地域に根付いた大会として成長してきましたことは、実行委員会をはじめ、関係団体、ボランティアスタッフなど、多くの町民の皆様のご支援とご協力によるものであり、これまで大会を支えていただいたすべての皆様に、改めて心より感謝申し上げます。

一方で、18年という年月の経過とともに社会環境も大きく変化してきました。

人口減少に伴い、大会運営に必要な人材の確保や公費を含む財政面での負担のあり方など、今後の大会運営に関わる様々な構造的課題が顕在化しています。

こうした状況を踏まえ、町では、大会の趣旨や規模、公費負担のあり方などについて関係者と協議し、将来にわたって持続可能な大会のあり方を検討していくこととし、令和8年度当初予算においては、同大会への補助金の計上を見送ったところです。

その後、本年7月16日には、同大会実行委員会事務局を中心とする関係者から現状規模での大会継続につ

いての提案をいただきました。

町執行部において、提案内容や大会を取り巻く状況、今後の運営体制等について検討いたしました。様々な課題の解決には至らないことから、現状規模での大会を将来にわたって継続していくことは困難であるとの結論に至り、四万十川桜マラソン大会については、第20回大会をもって終了することといたしました。

今回の決定は、長年にわたり大会を支えていただいた関係者の皆様のご尽力を思えば、町としても大変苦渋の決断であります。しかし、これまでの大会の歴史や成果を通じて培ってきた経験、人のつながり、そして地域の力を、次の段階へつなげていくための未来に向けた一つの転換点であると考えています。

これまで18回にわたり、多くのランナーの皆様の本町を訪れていただき、町民の皆様とともに大会をつくり上げてきたことは本町にとってかけがえのない大きな財産です。

今後は、第19回大会の開催に向けた準備を着実に進めるとともに、第20回大会については、これまで本大会を支えていただいた多くの皆様への感謝の思いを込めた集大成の大会となるよう、関係者の皆様と協議を重ねながら、参加されるランナーの

皆様、そして町民の皆様の心に残る大会となるよう、万全を期して取り組んでいきます。

これまで本大会を支えていただいたすべての皆様に、改めて深く感謝申し上げますとともに、本方針につきまして、議員の皆様をはじめ、町民の皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

町民の皆様には、一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

